

妙高、糸魚川含む上越地域で「さよなら原発集会」開催へ

6月29日の午後、上越市のリージョンプラザで



うれしいニュースです。さよなら原発集会、デモ行進が上越地区(妙高市、糸魚川市含む)でも開催されることになりました。日時は6月29日(土)の午後から。時間は確定しだい、お知らせします。

せします。リージョンプラザ上越で集会を行った後、デモ行進をします。

集会は、上越地区平和環境労組会議、上越地区労連、社民党上越地区協議会、日本共産党上越地区委員会の4団体代表が呼びかけ、実現する運びになりました。8日、この集会の実行委員会準備会が行われ、柏崎刈羽原発の再稼働に反対する各種団体代表、個人が約20人集まりました。

準備会では呼びかけ人を代表して上野市議(写真)が挨拶、「安倍内閣は新基準に基づいて原発を順次再稼働させようとしている。再稼働反対の世論に逆らう暴挙だ。人類と原発は共存できない。原発再稼働を許さず、自然エネルギーへの転換をすすめていく決意だ。従来の枠を超えて闘いの輪を広げていきたい」とのべました。

この日の準備会では、柏崎刈羽原発の再稼働

反対の一点で合意できるすべての人たちが力を合わせることで、従来の枠を超えた幅広い人たちが結集できるよう配慮することなどが確認されました。

集会の名称は、「つながろうフクシマ! さよなら原発 上越集会」。リージョンプラザコモンサートホール席をいっぱいにし、再稼働阻止に向けて運動を大きく盛り上げたいものです。

吉川区上川谷での交通事故で県のドクターヘリが出動

連休中の2日午前、上越市吉川区上川谷で乗用車が民家の裏に突っ込み、救急車、消防車、ドクターヘリが出動しました。乗用車は群馬ナンバーで、乗っていた男性と女性は大怪我をし、男性は救急車で、女性はドクターヘリで病院へ運ばれたということです。私の知るかぎり、上越市にドクターヘリが出動したのは今回が初めてです。

この日の事故でドクターヘリは現場の近くにある旧川谷小学校のグラウンドではなく、そこよりも遠い旧源小学校のグラウンドで離着陸しました。ドクターヘリの離着陸が旧源小学校グラウンドとなったのは、旧川谷小学校グラウンドが離着陸場所として登録されていなかったことによるということです。中山間地での住民の命を守るためには、旧小中学校のグラウンドなどを離着陸場として整備し、登録しておくことが必要ですね。

新潟県のドクターヘリ事業は昨秋にスタートしました。同事業は、救命効果の向上や後遺障害の軽減を図ることが目的です。

新潟県のドクターヘリ運航要領によると、離着陸場所の選定にあたっては、消防本部が運航

管理担当者との協議を経て、適切な場所を選定することになっています。また、離着陸場所の安全確保については、「原則として、出動を要請した消防本部が、離着陸場所の管理者又は所有者の協力を得て、離着陸場所の安全を確保する。なお、交通規制等が必要な場合には、必要に応じて警察の協力を得て行う」とされています。



吉川区上川谷の事故現場。2日の正午頃、橋爪が撮影しました。



【嫁泣かせ】山菜のひとつ、てんぷらにすると美味しい。「嫁泣かせ」というのは旧東頸城地方の、それも一部の呼び名で、学名はキバナアキギリ。シソ科。秋にはヘビがべろをだしたような形の黄色い花を咲かせます。ちょっとした里山の林道とか杉林の中などにもあります。

ゴールデンウィーク後半の三日、金沢の次男夫婦が帰省しました。いつものことながら母が一番楽しみにしていました。私は「しんぶん赤旗」日曜版の配達と集金で出かけていたのですが、母が「元氣、来たよ」と次男夫婦の到着を教えてくださいました。母はお昼前から準備をしていたのでしよう、私が到着した午後六時半よりも前には料理が出来上がっていたようで、居間の炬燵（こたつ）の上にはすでに御馳走が並べられていました。

出されていた料理は、茹でたコゴミとイワシをまぶしたものの、ウドの「さんばい」、ノノバ（ツリガネニンジン）の若芽のお浸し、豆腐の厚揚げ、それに母が得意とする赤飯とコンニャクです。このうち目を引いたのはウドの「さんばい」でした。皮をむき、酢を入れたお湯で湯がき、三倍酢に漬けておくという出来上がりか。色鮮やかで、とても美味しそうです。

この日の午前、私は友人と一緒に山菜採りをしてきました。母が料理して出してくれたノノバなどいくつかは私が採ってきたものです。その時の様子をデジカメに撮っていました。次男夫婦も写真が好き、カメラなどに入った画像データを持って来ていました。さらに私は夕食中からカメラを持ちだし、ばあちゃん料理を撮影しました。

おもしろい光景が出現したのは夕食後でした。言うまでもなく、私が持っているものと次男が持っているものとは画像データは違います。私のデータは山菜や山の子、次男は夫婦で出かけたときの愛車の入った風景が主でした。それらの写真を私と次男は、てんでばらばらにまわりの者に見せていたのです。私は隣にいた次男の連れ合いに、野の花や山菜採りの様子を見せたり、教えたりしました。次男の方は妻が相手です。きれいな海で撮った風景を妻に見せ、話はずんずん進みました。

しばらくして、次男の連れ合いだったと思いますが、みんながひとつのことに集中しないで、バラバラにしていることに気づきました。親子が久しぶりに再会したというのに、この家はどうなっているんだという気持ちがあったのでしょうか。笑いながら、「みんな、ばらばらに好きなことしている」と小さな声で言いました。そのひと声で、てんでてんで遊んでいることにみんなが気づき、大笑いしました。

そうこうしているうちに、次男がデジタルカメラとテレビをケーブルでつなぎ、画像をみんなに見せてくれました。こうなれば、全員がテレビに集中することになります。次男の画像データが先に映し出され、次いで私のデジカメの画像も映しました。

最初は海や山の写真でしたので、みんなが「なるほどね」と言った感じで見ていたのですが、私が撮った一枚の画像を映し出したところで全員が再び噴き出してしまったのです。その写真に写っていたのはちょっと前の食後の風景です。次男はカメラを斜め上にかまえて覗き込んでいました。母は自分の前の山菜料理を見ている。妻は妻でとんでもない方向を見て笑っていて、ここでも、てんでばらばら、勝手に動いているのが映し出されていたのです。

映し出された中には山菜採りに行った時の山の写真も二、三枚ありました。そのうち一枚には山の急斜面が写っていました。この写真にいち早く反応したのは母です。「あっ、ウドがある」。母は、写真の左下の方にあるウドを見つけたのでした。長年、山菜採りをしてきた者ならではの「山菜を見つけたら目」はウドを見逃さなかつたのです。そして、みんながそろって言いました、「ばあちゃん、すごいね」と。

若葉揺れ、小鳥たちがさえずる中でオカリナ演奏

連休の最終日の5日、日本共産党橋爪法一後援会主催の山菜祭りが私の牛舎脇広場で行われました。第一部は私の議会報告とオカリナの演奏、朗読でした。

議会報告では、合併後9年目に入って、いま市政はどうなっているか、総合事務所の産業建設グループ集約、公の施設の再配置、介護保険などについてふれながら説明し、私ども議員団の見解を語りました。また、注目されている中山間地対策については、今年度の予算内容なども紹介しました。

オカリナの演奏は柏崎、小千谷よりおいでいただいたK&Sオカリナデュオのみなさんです。青空の下、若葉が揺れ、小鳥たちがさえずる中で、「花祭り」「花が咲く」など素敵な演奏を聴くことが出来ました。小田順子後援会長は「紫だいこん」を朗読、二度と戦争をしてはいけないという気持ちを新たにしました。

第二部は山菜料理を楽しむ交流会です。ウド、ノノバ、コゴミ、コシアブラ、タラの芽などたくさんの山菜料理が出ましたが、ここでは、やはり「嫁泣かせ」が一番の話題となりました。間違っ、て、「女泣かせ」ってこれか、と言う人もいて大笑いしました。

交流会では女性後援会のみなさんは東北支援のボランティア活動をするためのカンパを訴え、約1万円が寄せられました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	5月1日(水)	5月8日(水)
上越南消防署	0.040	0.040
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.053	0.050
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.053	0.040
東頸消防署	0.047	0.047
高士分遣所	0.047	0.053
名立分遣所	0.053	0.053

